

さくら通信

第13号

平成24年 1月発行

《発行者》

さくら動物病院

新聞編集委員

増山 山浦

新年あけましておめでとうございます。本年もさくら動物病院をよろしくお願いたします。さあ、今回も小諸の寒さに負けずに元気にいきましょう！

さて、特にこの寒い季節などに感じられる「低温」は、人間にとっても動物にとっても、体は「ストレス」の一つとして認識します。「ストレス」とは「身体の恒常性を崩すもの」の総称ですから、季節の変わり目や気温変化の大きい日などは、人も動物では体調を崩す子が増えてきます。動物達は体が小さい分、温度変化に影響を受けやすいのです。ですから飼育環境の温度は、なるべく一定範囲内に保つことが望ましいという事になります。ただ、光熱費を考えると懐が寒くなってしまうのも事実ですので、補助暖房として昔からの知恵を拝借。私のオススメは、「湯たんぽ」（低温火傷に注意）です。他には「保温シート（動物用）」なんかもあります。なんだかどこかの通信販売みたいになってきましたね。でも、案外多いんです、「湯たんぽ」を使われているオーナーさんって。ですから、ぜひお試しください。

また、季節によってみられる病気は様々ですが、寒い季節、高齢の動物にとって、「気温の変化」によって引き起こされる体調の悪化は、「病気の連鎖」の第一段階となります。例えば、あるネコさんの場合、寒さで腰が痛くなる（神経痛）→痛みから食欲が落ちる→脱水により腎疾患が進行（腎機能の低下）→体力の低下によるネコ風邪の悪化（感染症）→さらなる食欲／元気の低下→肝疾患の発症、全ての症状の悪化・・・といった具合に正に芋づる式です。

ここまでいろいろな症状が出てからでは治療もなかなかうまくいきません。やはり病気は早期発見が大切だという事ですね。早い段階で気がついてあげる事は、飼い主の皆さんにしかできません。心配な方は定期的な診察もしくは健康診断をぜひうけて客観的なデータで健康管理をしていきましょう。



動物達も我々人間と一緒にいたいという事を覚えておいてください。

《お知らせコーナー》

2月の休診日

7, 14, 21, 26, 28

午後休診日

5, 9, 11, 12, 16, 19, 23

院長不在日

4, 7, 8, 11, 12, 14,

17, 18, 19, 21, 28

携帯でもさくら動物病院のサイトにアクセスしていただけるようになりました！

メールマガジン月2回配信中！

詳しくはこちら

<http://www.sakura-komoro.jp/>



さくらスクール開催日決定！

日程 2/26(日)

受付 13:00～

場所 ベルウィン小諸

内容

皮膚病・日常ケア

院長の質問コーナー



意外と多い「膝蓋骨脱臼」

このところ当院で比較的手術の多い疾患に、「膝蓋骨脱臼」があります。
ここでは膝蓋骨脱臼の症状から診断、治療まで簡単に説明いたします。

膝蓋骨って何？

いわゆる膝の「お皿」の骨のことです。

膝蓋骨が脱臼すると、痛みや骨格変形を伴います。これが膝蓋骨脱臼です。



正常の膝蓋骨
の位置です。



小型犬に多い内方脱臼。
膝蓋骨が内側に変位しています。
外側に変位する外方脱臼もあります。

こんな感じ
で足を挙上
することが
あります。

膝蓋骨脱臼を発症している場合、後肢が回転した状態になります。そうした場合、前十字靭帯に過度な負荷がかかり、**前十字靭帯断裂を併発することがあります**。膝蓋骨脱臼を慢性的に起こしている症例の15~20%にみられるという報告があります。

まずはグレード分類を行います

症状は軽度のものから重度のものまで多様で、4つのグレードに分類されます。



グレードI：膝蓋骨は手で押すと脱臼するが、手を離せば正常位に戻る。

グレードII：膝蓋骨は膝を屈曲するか手で押せば脱臼し、膝を進展するか手で押せば整復する。

グレードIII：膝蓋骨は常時脱臼したまま、手で押せば整復、手を離せば再脱臼する。

グレードIV：膝蓋骨は常時脱臼し、手で押しても整復されない。

治療方針の決定

症状の有無（痛み、跛行など）、経過（どのくらいの期間続いているか）、年齢、体重、併発疾患（前十字靭帯断裂など）によって、内科的治療および外科的治療を選択します。

内科的治療：抗炎症剤（痛み止め）、サプリメント

外科的治療：滑車溝形成術、脛骨粗面転位術、大腿四頭筋の分離、関節包縮術、脛骨内旋制動術

予防するためにできること

1. **ダイエット**

2. **生活環境の改善**

フローリングは滑りやすいので注意が必要です。

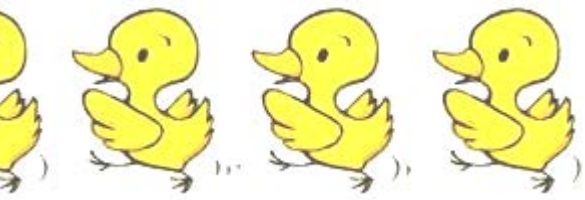
激しい運動はもちろん、ソファーやベッドなどからの飛び降りもできるだけやめましょう。

3. **爪切り、足裏の毛カット**



おわりに

膝蓋骨脱臼は、小型犬に多い傾向がありますが、中型～大型犬にもみられるので、要注意です。診断自体は比較的すぐにつきますが、軽度の膝蓋骨脱臼の場合は慌てる必要はありません。重要なのは**早期にグレードを把握し、これ以上の進行を阻止すること、外科的治療に踏み切るタイミングを見極めること**です。 文責 宮地



～グリーンスタッフさん～

やんちゃ盛の子供がいる2児の母です。毎日、子育てに追われていますが、ワンちゃん、ネコちゃん達に癒されてパワーをもらっています！



青木



内堀

毎日、家事や子供達の世話で忙しく暮らしていますが、ワンちゃん、ネコちゃん達にパワーをもらっています。よろしくお願いします。

子育てと仕事の両立は大変ですが、毎日楽しみながらやらせていただきます。



高地



相馬

3歳の子供がいて、毎日たいへんですが、ワンちゃん、ネコちゃんが大好きなので、とても癒されています。皆さんが気持ちよくいられるようがんばります。

こんにちは！
皆様快適に過ごしていただく為にピカピカに磨いています！



町田



～トリマーさん～



土屋

まだまだ未熟者ですが、みなさまから色んな事を学び信頼していただけるトリマーを目指して頑張りますので宜しくお願いします



シャンプーもトリミングもご希望にそえるようにしますのでお任せ下さい。頑張りますので、宜しくお願いします。

林



今回、新しく導入された秘密道具（別に秘密じゃないです）を紹介します。

さくらの秘密道具その①

双眼倒像鏡

眼底部の観察に用います。倒像鏡による眼底部の検査により、眼底の広範囲に及ぶ網膜疾患を見逃しません。この倒像鏡により得られる画像は眼底カメラにより記録されます。観察可能な主な網膜疾患：網膜萎縮、網膜の部分剥離、網膜出血など



こんにちは！

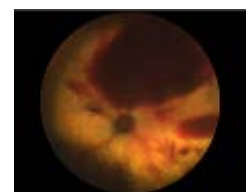


使っているところ

網膜の様子



<正常>



<眼底出血>